



S_{unday} S_{chool} クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.23 2022. 5. 29 発行

へんてこすて？

創世記 11章 1～9節

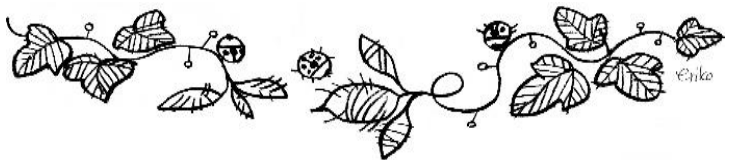
ごきげんよう！

牧師 梅津 裕美

「へんてこすて」なんて言ってるのは、だあれ？ 教会でおいしいおいしい「鳩サブレ」もらえる日に、そんなこと言わないでね。このお菓子がもらえる日は「ペンテコステ」で～す。鳩のように聖霊が天から降ってきたから・・・ということで、日曜学校の先生方が「ならば、この日のお菓子は『鳩サブレ』にしよう!」ということになりました。それにしても「ペンテコステ」とは、なんだかへんてこな呼び名ですね。これは「五旬節—50 日」という意味があります。イエスさまの復活から 50 日目のことです。どうしてその 50 日目を特別にお祝いするのでしょうか？

むかしむかし、ある所に「バベルの塔」という高い塔がありました。もしかしたら、東京タワーよりもスカイツリーよりも高かったかもしれない。人々が天まで届くように建てましたから、それくらい高かったはずです。高くして超有名になりたかったのです。自慢する目的で団結してその塔を建てたのです。一致団結は良いことのように思いますが、でも人間が有名になりたい欲望のためなら、神さまは良しとはされませんでした。神さまは彼らに話し合いができないように、言葉をばらばらにして乱してしまわれました。話し合いができなくなった彼らは高い塔の建設が続けられなくなったのです。

ところが、「ペンコステ」の日に天から聖霊が降って、それまで、ばらばらな言葉で通じ合わなかった人々の心が、神さまの方に向かって神さまを賛美する一つ心になったのです。誰もが自分の栄光ではなく神さまの栄光をほめたたえたのです。それがペンテコステをお祝いするわけです。へんてこな呼び名ですが、わたしたちが神さまに向かって一つになれる原点がここに 있습니다。



堀内長老からのメッセージ

6月12日は「花の日」です。1856年6月にアメリカの教会で「子どもが信仰に導かれるために」特別な礼拝を守ったことから、「子どもの日」が始まりました。そして、この時期が花が美しく咲く季節であったので「花の日」としても守るようになりました。花はいつの時代でも心をなごませ、贈ったり、飾ったりします。先日母の日をカーネーションでお祝いしました。イエスさまがすごされたユダヤの地にも色々な花が咲いていたことと思います。イエスさまは野の花を用いて語られました。「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたはなおさらのことではないか」。イエスさまは、思い悩んでしまい、自分の周りしか見られなくなってしまう私たちのために、もっと広いところを見なさいと言われます。そこには神さまが造られた世界があり、神さまが養い、装ってくださっていることが分かります。今、美しい花を見たり、育てたりする時、このイエスさまのみ言葉に心を寄せたいと思います（マタイ6:25-34/ルカ12:22-34）。